

埼玉県議会議員 高木功介県政報告

クルド人関係者による襲撃事件特集 暴力に屈せず、国民の安心を守る!

川口市の現場を何度も歩き、外国人問題を考える

私はこれまで、川口市やさいたま市で深刻化するクルド人問題について、県議会での質疑や地域での活動を通じて、継続的に取り組んでまいりました。

しかし、「共生社会」という理想が語られる一方で、川口市では現実には暴力やトラブルが発生し、地域住民の安全・安心が揺らいでいます。

6月2日には、私自身が主催し、超党派の地方議員有志とともに市内を視察しました。芝園団地における共生の努力と、トラブルが起きている現場を見比べ、痛感したのは「秩序」と「安全」があつてこそ共生は成り立つという当たり前の事実でした。そして、その直後に私自身が襲撃事件に巻き込まれ、改めて地域の安全の重要性を、身をもって経験することとなりました。

川口芝園団地視察



外国食料品店



中国語のマナーブック



綺麗な共用部

視察で最初に訪れた芝園団地は、多国籍の住民が暮らす中で、自治会や地域の方々の努力によって一定の秩序が保たれていました。住民同士が協力し合い、ゴミ出しルールの徹底や防犯カメラの設置など、地域のルールを整備することで一生懸命「共生」を模索していました。

クルド人関係者による襲撃

次に、クルド人によって住民間トラブルが起きている現場を視察しました。公道から合法的に地域の現状を確認していたところ、突如クルド人関係者による妨害行為を受けました。5km以上にわたって尾行され、身の危険を感じて110番通報をして武南警察署に避難。しかし、警察署内にまで追跡は続き車を取り囲まれる「監禁・威嚇」行為が続きました。これは、議員という立場で公務を行っている人間に対する、極めて深刻な妨害であり、民主主義への挑戦であると考えています。法に従い厳正に対処しています。



追跡と監禁・威嚇の動画(部分)

クルド人関係者による執拗な尾行・追跡を受けました。車で三方を囲まれ、身動きが取れない状況の中、「出てこい」「降りろ」といった怒声や侮蔑的な言動を長時間浴びせられ、事実上の監禁状態となりました。

高木功介事務所

victory@takagikosuke.jp
TEL 048-762-7761

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤2-9-19-202



6/5の産経新聞での発信と反響

クルド人関係者による襲撃事件については、6月5日付の産経新聞（電子版）が、大手メディアとして唯一報じてくれました。一方で、議員襲撃という極めて重大な出来事を取り上げなかった「オールドメディア」の姿勢には、大きな疑問を感じざるを得ません。この産経新聞の記事は大きな反響を呼び、X（旧Twitter）では「1日の日本国内のトレンド第1位」となり、一気に日本中に知れ渡ることになりました。



主なネットメディアでの放映

襲撃事件について、多くのネットメディアでも取り上げられました。いずれも地域が直面している課題をめぐり、大きな社会的議論を呼んでいます。（各回動画は下記数字）

『文化人放送局』

「【戦慄の一部始終】クルド人が警察署内で県議に怒声・威嚇」（6月6日放映）①

「【実名糾弾】クルド人を刑事告訴 警察署怒声騒ぎで「正当な視察妨害」」（6月27日放映）②

『チャンネル桜』

「クルド問題 —その移民問題の危険な現実—」（6月11日放映 43分から）③

『産経WEB LIVE』

「埼玉県議の高木功介が語る『川口クルド人騒ぎで告訴』 矢野将史記者が聞く」（6月27日公開）④



①



②



③



④



産経WEB LIVE

文化人放送局



チャンネル桜

6/10出演のABEMA Prime の反響

テレビ朝日系列の「ABEMA Prime」では、川口市でのクルド人問題という本題から逸れ、出演者のバックンや長谷川ミラ氏から「言葉尻」をとらえた批判が相次ぎました。

「暴力的な相手とも対話すべきだ」「視察の方法が悪かった」「あなたたちは市民の敵だ」といった指摘がなされ、まるで視察を行った我々が加害者であるかのような印象を与えられたのです。

しかし、この番組の姿勢については放送直後から世論の間で大きな疑問や怒りの声が上がっています。



バックン、奥富市議、田村淳、呂布カルマ、長谷川ミラ各氏と



ABEMA TV
6/10放映
(ノーカット)

クルド人を刑事告訴し衆議院議員会館で記者会見

7月1日、私は衆議院第二議員会館において記者会見を行いました。これは、6月2日に川口市内で発生した私への襲撃事件について経緯を説明し、クルド人関係者を刑事告訴したことを報告するためのものでした。私は「クルド人に対して泣き寝入りを強いられてきた多くの人々の代弁者として刑事告訴に踏み切った」と説明し、この問題を社会全体で共有する必要性を訴えました。会見はニコニコ生放送などでも生中継され、大きな反響を呼びました。

なお、当初は6月20日に埼玉県議会議事堂で記者会見を行う予定でした。しかし前日になって県議会事務局から「混乱を避けたい」「安全が確保できない」との理由で、急遽会場の使用が取り消されました。しかも事務局はこの判断にあたり、白土県議会議長（自民）に相談したことを明言しており、自民党県議団の意向が強く働いたものと推察されます。

私は、県政に関わる重大な報告である以上、本来は県議会議事堂で行うのがふさわしいと考えていました。しかし今回の対応は、結果として「県議会が暴力や圧力に屈した」と受け止められかねず、きわめて残念です。議会は県民に開かれた場であり、暴力や脅しに左右されることなく、堂々と事実を伝え、議論する場所であるべきです。



奥富精一市議 諸井真英県議と



40人ほどの記者が来る



会見の動画
(ノーカット)
ニコニコ動画

7/1出演のABEMA Prime の反響

前回の「ABEMA Prime」では、偏向的な編集がなされ、ネット上で大きな議論を呼びました。こうした報道のあり方には強い疑問を感じざるを得ません。

その後、田村淳氏が川口や蕨市を訪問し、クルド人との交流を自ら取材する様子が放映されました。しかし、スタジオでその映像を拝見して、思わず首をかしげました。というのも、インタビューに応じ「ゴミ拾いをして善良に暮らしている」と紹介された人物が、実は私への襲撃事件の加害者であり、その後強制送還された人物も含まれていたからです。

こうした演出は、地域の現実を正しく伝えるどころか、かえって事実を歪め、住民の不安を増幅させかねません。結局、この放送は「やらせ」と批判され、再び炎上しました。テレビが果たすべき役割は、問題を覆い隠すことでも、一方的な印象操作を行うことでもなく、冷静で公正な事実を提示し、社会的な議論に資することではないでしょうか。



淳×川口クルド どう融和? 防犯パトロールも



川口クルド騒動 淳が現地視察 融和の道筋は?



ABEMA TV
7/1放映
(ノーカット)

大手メディアからネットメディアへ

6月2日のクルド人関係者による議員襲撃事件、そして7月1日の衆議院第二議員会館での記者会見について、大手マスメディア（いわゆるオールドメディア）で報じたのは産経新聞だけでした。NHKは記者すら派遣せず、民主主義に関わる重大事件であるにもかかわらず、報道が極めて限定的であったことは異常といわざるを得ません。

一方、この襲撃事件の様子はX（旧Twitter）やインターネット動画を通じて広く拡散され、多くの国民が現実を知るきっかけとなりました。その結果、外国人問題は参議院議員選挙の大きな争点の一つとなり、従来の政治構図にも影響を与えました。

これまで大手メディアは、外国人問題を「差別」「ヘイト」といった言葉で矮小化し、本質的な議論を避けてきたきらいがあります。しかし、今はSNSやネット動画によって市民が直接情報を得て、自ら発信できる時代です。真実を共有し、議論を深めることでこそ、民主主義は健全に機能します。今回の選挙で新しい勢力が支持を伸ばした背景にも、こうした情報環境の変化があると考えています。



文化人放送局での撮影風景



ABEMA TVでの撮影風景



高木功介公式X（旧Twitter）
フォロワー数も1.3万人突破
日々、発信しています。是非、
フォロー宜しくお願いします。

現在と未来の日本人のために

今回の視察と襲撃事件を通じて、私は改めて「秩序と安全」があってこそ外国人との共生は成り立つという現実を痛感しました。現在、襲撃事件の加害者については、しっかりと法の裁きを受けさせるため、検察への送致に向けて警察の捜査に全面的に協力しています。

私は、暴力や脅しに決して屈することなく、国民・県民の安全・安心を守り抜きます。改正入管法が施行されて1年。難民制度を悪用した不法就労クルド人が、我々の努力の積み重ねによりようやく強制送還される一方で、不法滞在中に誕生した子どもに特別在留許可を出すという理解しがたい政治判断も行われています。課題は依然として山積しています。

先人が必死に築いてくれた美しい日本を、次の世代にさらに発展させてバトンタッチするために。そして、安心して暮らせる日本・埼玉を築くために。私はこれからも現場に立ち、事実を直視し、解決への道筋を示す政治を実行してまいります。

「国民と共に 国民のために」高木 功介 Profile

昭和51年、埼玉県川口市生まれ。埼玉県議会議員（浦和区選出）2期目。産業労働企業委員長、文教副委員長、総務県民生活副委員長などを歴任。私立本郷高等学校を卒業後、筑波大学国際総合学類卒業、筑波大学大学院修了博士（国際政治経済学）。慶應義塾大学大学院修了、MBA 修士（経営学）。東京大学大学院修了、修士（工学）。筑波大学研究員を経て外務省入省。国際法局国際法課および総合外交政策局安全保障政策課に勤務。趣味は浦和レッズの応援とクラシック音楽鑑賞。家族は妻（医師）と母。